

■ 整形外科診療のパラダイムシフトを目指す！ ～こんなときは漢方でしょ～

子供から高齢者まで～スポーツ障害と漢方

富澤 英明（東京蒲田病院 整形外科）

「NSAIDs と湿布で安静にするしかないの？」「ぶり返す痛みにはどうしたらいい？」効果的な西洋薬がないスポーツ障害には漢方という選択肢を持ちましょう。小児から高齢者まで、病因・症状別に、スポーツを楽しむための処方をご提案します。

早期社会復帰を目指した整形外科領域漢方活用例

普天間 朝拓（沖縄県立中部病院）

整形外科疾患の急性期の病態生理を東洋医学的病態に置き換えながら、漢方薬を併用することで、より効果的な治療を行うことができる。実際に経験した症例を通して、急性期治療における漢方薬の有用性をお伝えしたい。

整形外科診療における積極的漢方療法

宮西 圭太（みやにし整形外科リウマチ科）

漢方薬が整形外科診療で広く普及しているとは言い難い。難しい理論にとらわれず、疾患や症例特性に沿った漢方薬選択のコツを習熟し、西洋医学的治療と適切に組み合わせることで診療の幅を広げることが可能となる。

よくみる整形外科疾患に有効な漢方処方

福嶋 裕造（福嶋整形外科医院）

整形外科領域における漢方治療は非常に有用であり、西洋医学的治療の補助や副作用に対してのみならず治療の主石として用いることができる。今回は整形外科とその境界領域について述べる。